

『天国か？地獄か？』

'22/01/02

聖書箇所: マタイの福音書 25 章 1-46 節 (新約 p.52-)

皆さん、改めまして、明けましておめでとうございます。今年も、神様の憐れみによって、こうして新年を迎えることができ…、ここで皆さんと一緒に、今年最初の礼拝を捧げることができますことを、本当に嬉しく思います。しかし、私たちは喜んでばかりではおられません。…と言いますのも、私たちは、間違いなく、もう1年、世の終わりに近づいてきたわけでありまして…、私たちは、益々、神様から託された責任と義務とを果たさないとはいられないからです。

命題: 救われている者たちに現れる特徴とは、どのようなものでしょうか？

どうぞ、まずは、今日のみことばの最後…、この1ヵ月、前のスクリーンにも表示されるであろう、みことばをご覧ください。そこで、イエス様は、46 節、『こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入る…』(マタイ 25:46)ということをおっしゃっておられます。皆さん、『永遠』って分かっていますか？…「永遠」ということは、「終わりが無い！」ということなのです。…そこに入ってしまったら、もう絶対に出られないのです！ そうでしょ？…実は、一部のクリスチャンたち(例:ローマ・カトリックなど)は、「聖書が教える裁きは、永遠のものではない！」ということを教えます。しかし、それとは全く反対のことを、今日のみことばは教えてくれているのです！ だから、私たちは、このみことばをよーく学ばないといけないのです。

恐らく、八田西 CC の皆さんは、このメッセージを何度も聞いてくださっていると思いますが、年始の今日だからこそ、私たちは、今一度、イエス様が、この世の終わりに関して教えてくださいました聖書のみことばから、本当に救われている者たちに現れる特徴について見ていきたいと思えます。そうすることによって、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、この新しい1年を益々、有意義に…、かつ、祝福に満ちたものとしていってくださいますことを願うものです。聖書の箇所は、マタイ 25 章の全体、1-46 節になります。

I・再臨のための備えをしている！(1-13 節)

ご存知のように、ここマタイ 25 章には、3つの例え話が語られています。それらすべてが共通して、教えてくれていることは、救われている者たちと救われていない者たちとの違いであります。まず、最初の例えですが、ここに登場している者たちの違いを挙げるとするならば、それは、イエス様の“再臨”のための備えをしているかどうか？ということではないでしょうか？まずは、こちらで 1-13 節を読ませていただきます。

- 1 そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。
- 2 そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。
- 3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。
- 4 賢い娘たちは、自分のともしびといっしょに、入れ物に油を入れて持っていた。
- 5 花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。
- 6 ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声が出た。
- 7 娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。
- 8 ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』
- 9 しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはとうてい足りません。それ

よりも店に行って、自分のお買いなさい。』

10 そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼といっしょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。

11 そのあとで、ほかの娘たちも来て、『ご主人さま、ご主人さま。あけてください』と言った。

12 しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません』と言った。

13 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。

今、お読みしましたみことばに、『花婿を出迎える十人の娘…』という者たちが登場していましたが…、実は、この当時、イスラエル地方には、こういったような習慣がありました…。若者たちが結婚する少し前、婚約してから約1年後…、夫婦での結婚生活が、いよいよ始まるという時に、それを祝うための祝宴をしたのだそうです。その時、花婿は花嫁の友人たちを伴って、不意打ち(=サプライズ)のような感じで、花嫁のところに行くようなことがあったのだそうです。実は、現在でも花嫁の友が寝ているような時に、不意に迎えに行くようなことがあるのだそうです。

この例えを見てみますと…、救われていた者たちとそうではなかった者たちとの違いは、実は、ほんの少しであったことが分かります。つまり、彼女たちは、ほとんど同じような環境(①花嫁の友人、②ともしび、③眠り始めた等)に居りました。彼らの違いは、たった1つ…、つまり、「油のあるなし」でありました。つまりは、花婿のこを出迎える準備ができていたか否か？だったのです。しかし、その準備ができていたか否かが、彼女たちの生き方であり…、彼女たちの救いが本物か偽物か？を証していたわけなのです。

だって、皆さん…。もしも、自分がどーしても花婿のこを出迎える立場にあつて…、何としても、自分が結婚の祝宴に参加したい！と思っていたら、そのための準備を怠ってしまう、なんていうことが有り得るでしょうか？今日のみことばで、イエス様は、そのことをもって、彼女たちが賢いかどうか？という話をなさっていますが、それは、当然、学校の勉強ができるできない、ということではありません。イエス様は、彼女たちの生き方(=彼女たちの知識と行動とが繋がっているかどうか？)のこをおっしゃっているのです。

今日のような正月早々でも、礼拝に来てくださるような皆さんは、特に熱心な信仰者であると言い得るでしょう。しかし、失礼ながら、聖書のみことばは、皆さんのように、教会へ熱心に通っている者が必ずしも救われている！とは教えてくれないかもしれません。あるいは、信仰告白をして、教会員名簿に名前を連ねている者が本当に救われているとも…、あるいはまた、バプテスマを受けた者が全員救われているとも…、聖書の知識が豊富な者が救われているとも教えてはけません！

今日のみことばが教えてくれているところの、本当に救われている者の特徴は、その者が、イエス様の再臨に備えているかどうか？です！いつ、イエス様が再臨をしてくださっても良いように、これまでの生活を送ってこられたかどうか、ということが1番の問題なのです。そうでしょ？

クリスチャンの皆さん…。果たして、あなたは再臨のための備えをしていらっしゃるでしょうか？もし、あなたが、「イエス様の再臨まで、あと1日2日…」と聞いて、慌てるなら、それはあなたの備えができていないということに、なりはしないでしょうか？果たして、皆さんは家族に、十分救いのメッセージを語っておられるでしょうか？あるいは、皆さんの親戚の方々にはいかがでしょうか？あるいは、恋人にはどうでしょうか？

今、私は、(エホバの証人のように…)熱心に伝道する者が救われる！という話をしてはおりません。あるいはまた、自分の家族が救われているかどうか、その人の救いに関係する？ということでもありません…。本当に救われている者たちは、そういったことに対して、危機感をもって伝道する！ということでもあります。もしも、自分の愛する家族が今、地獄に向かっている…。あるいは、自分の愛する恋人が今も永遠の裁きに向かっている…。としたら、私たち、何としても救われて欲しい！福音を語ろうとするじゃないですか！そうですよ？だって、イエス様の再臨というものは、いつ来るか分からないのです！…

今日、明日かも知れないのです！いつまで、私たちは、その人たちに伝道できるか分からない…。ひょっとしたら、今日が、その人に伝道できる最後のチャンスかも知れないのです！…だとしたら、私たち、「まだ、伝道していない…。まだ、語るべきことを十分には語っていない…。」というのは、どこがおかしいのではないのでしょうか？

このみことばが、非常に恐ろしいのは、この話に登場してくる10人の娘の内、5人の娘たちが救われていなかった…という例えになっていることです…。この、10人の内5人というのは、イエス様の創作です。この数字を、イエス様は自由に変えることができたはずですが…。…ということは、つまり、イエス様は、弟子たちに対して、「如何に、多くの者たちが救われている…と考えてはいても、実際は救われていないのである…」ということを警告してくれている！ということです。明らかに、イエス様は、このみことばを聞いた者たち全員に対して、ある種の“危機感”を与えようとしておられる、ということは間違いありません。

皆さん、覚えてくださっています？あの、マタイ7章で、イエス様は、『わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。』(マタイ 7:21)ということをお教えました。その少し後で、イエス様は、こうおっしゃられたのです、『しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』(マタイ 7:23)って…。』…いかがですか？ここマタイ7章で、イエス様から、『知らない』と宣告されてしまう者たちと…、今日のみことばの12節で、花婿から、『確かなところ、私はあなたがたを知りません』と言われてしまう者たち…、彼らの共通点って、結局、彼らが口で言っていた信仰告白と、その行ないとにギャップがあったと言い得るのではないのでしょうか？…いかがでしょう？果たして、皆さんは、自分は、信仰とその行ないとに、大きなギャップが無い！と言い得るのでしょうか？そういったことを、私たちは、しっかりと考えていかなければいけないのではないのでしょうか？

II・賜物を用いて、主のために働いている！（14-30節）

どうぞ、今度は、今日のみことばの次の部分、14-30節の部分に注目してください。この部分で、イエス様は、本当に救われている者たちは、自分に与えられた“賜物”を用いて、主のために働いている！ということをお教えています。今度は、その部分、14-30節を読んでいきたいと思えます。

- 14 天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。
- 15 彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。
- 16 五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。
- 17 同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。
- 18 ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。
- 19 さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。
- 20 すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま、私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』
- 21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- 22 二タラントの者も来て言った。『ご主人さま、私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』
- 23 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- 24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま、あなたは、蒔かない所から刈り取

り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。

25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』

26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。』

27 だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。

28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。

30 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ぎしりするのです。

ここでは、ご主人様が、3人のしもべたちに自分の財産を託すという例えになっています。明らかに、このご主人様は、真の神様のことを表わしている！と言って良いでしょう。しかし、問題は、このご主人様がそれぞれのしもべたちに託された財産が、何を意味しているか？ということです。…私も、過去、聞いたことがあるのは、ここで、ご主人から託された財産のことを、「霊的な賜物」と解釈することです。…しかし、私たちの聖書理解では、霊的な賜物というのは、救われた者たちに与えられるものですから、霊的な賜物が与えられた者が実は救われていなかった…、というのは、明らかに、矛盾します。

そこで、私は、ここで言われている「財産」のことを、「天の神様が、私たち…すべての人間に与えてくださった才能や恵み」という風に理解しています。ま、広い意味で、「神様から与えられた賜物(ギフト)」とも言い得ると思います(霊的な賜物ではなく)。確かに、聖書のみことばは、天の神様が私たちに、たくさんの恵みや様々な物を与えてくださっている！ということをお教えています(申命記 33:13-16; 伝道者の書 3:11-14; 5-18-20)。私たち人間は皆、生まれながらにして、数え切れないほどの恵みを神様から戴いているのです。皆さんが、この世に生を受けられたのも…、また、これまで生きてこられたのも…、様々な必要が与えられていることも…、すべては支配者なる神様からの恵みなのです…。しかし、果たして、皆さんは、その神様に対して、そのことを感謝してこられたでしょうか？あるいは、感謝はしていますが…、その感謝を、真の神様に伝えることなく過ごしてはいらっしやなかったのでしょうか？

天の神様は皆さんに、たくさんの恵みを施してくださっています。ひょっとしたら、その量は必ずしも全員が全く同じではないかも知れません…。しかし、ここでは、1番少ない者でさえも、1タラント(6000 デナリ = 安息日を考えると 20 年分の収入?)もの、恵みが託されていたことが分かります。この当時は、多くの者たちがその日暮らしの生活をしてきたことを考えると、その金額は計り知れません。

しかし、天の神様が、そのように…、皆さんにたくさんの恵みを施して下さっていたのには、それだけの理由があります。それは、神様が皆さんに託して下さった賜物や恵みを、もっと多くの者たちに伝えていくこと…、言い換えますと、その神様の栄光を現わしていくこととあります。このみことばが教えてくれている、3人のしもべたちの内2人は、それをしていたように見受けられます。…と言うのも、彼らは、神様から託された恵みをもって、さらに、その恵みを増し加えていたからです。

皆さん、気付いてくださいますか？…ここで、5タラントを稼いだ者と、2タラントを稼いだ者に対して、この主人は、全く同じ、称賛の言葉をかけてくださっています。彼らが儲けた、その金額の違いに関して、ご主人様は、一切、注意しておられないのです！…しかも、どうぞ、この21節と23節とに注目してください。このご主人様は、自分が預けた5タラント、あるいは、2タラントのことを、どのように、表現しておられます？そこには、何とあります？⇒『わずかな物』でしょ？でも、どうですか？先程、『タラント』という単位について、簡単に説明させていただきましたが…、1タラントで、約20年分の年収であるわけです。

…ということは、5タラントを預かったしもべは、単純に計算すると、約100年分の年収。2タラントの者は、約40年分の年収にも相当するわけです。でも、これって、『**わずかな物**』ですか？…そんなことないでしょ？でも、天の神様は、「わたしが、あなたに、この地上で託した恵みは、わずかな物と思えるほど、わたしは、あなたに、天にあっては、より多くのものを授けよう！」とおっしゃってくださっているのです！天の神様は、それほどまでに、私たちに対して、多くの祝福を与える！と約束してくださっているのです…。

しかし、そんな者たちに対して、今度、1タラントを託されていた者は、どうでした？⇒どうぞ、24-25節をご覧ください。彼は、こんなことを申しています。『24 …ご主人さま。あなたは、**蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方**だとわかっていました。25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』って…。このしもべは、神様から、たくさんタラントを預かっておきながら、その神様のことを、『**蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集める“ひどい方”**…』であるという理解を持っておりました。そうして、彼は預かっていた1タラントを地面の中に隠しておいたわけですよ。そのため、ご主人様は、このしもべに対して、26節、『**悪いなまけ者のしもべだ！**』という風に叱るわけです。…と言うのは、このしもべは、ご主人様の期待通りに働かなかったからです。

良いですか、皆さん…。天の神様は、皆さんに期待していられるのです、与えられた恵みをもって、神様に喜ばれる働きをなしていられることを…。本当の信仰者(キリスト者)たちは、神様がどれほど多くの恵みを、自分に託してくださったかを知っているし…、それを他の人に伝えるし…、不器用であっても、何とか神様のために生きていこうとするはずであります。しかし、真の神様をご存知ない方は、勿論、そのように…、つまり、その神様のために生きようとはしません。

まだ、イエス様のお信じでない皆さん…。果たして、皆さんは、これまで、神様からの恵みを感じることがなかったのでしょうか？ひょっとしたら、皆さんは、これまで、自分の力だけで生き…、自分の努力や才能だけで、様々な困難を乗り越えてきたとお思いなのでしょう？もしも、そうなら、神様は、あなたのことを、『**悪いなまけ者のしもべだ！**』と言われるでしょう…。だって、神様は、あなたに対しても、これまで、計り知れないほどの多くの恵みを分け与えてくださっていたのに、あなたは、その神様に感謝することも、神様のために生きようとしてこられなかったからです。…どうか、まずは、すべてを御支配しておられる神様からの恵みに感謝する者であっていただきたいと思えます。

Ⅲ・他の者たちに、**愛**を実践している！(31-46節)

どうぞ、次は、今日のみことばの最後の部分である、31-46節をご覧ください。ここで、イエス様は、**本当に救われている信仰者は、他の者たちに対して、“愛”を実践するはずだ！**ということをお教えてくださっています。どうぞ、今日のみことばの、31-46節の部分をご覧ください。

- 31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。
- 32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、
- 33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。
- 34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』
- 35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、

- 36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』
- 37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。』
- 38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。』
- 39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』
- 40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』
- 41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。』
- 42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、
- 43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』
- 44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』
- 45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』
- 46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。』

どうぞ、皆さん。まず、今日のメッセージの冒頭でも紹介した **46 節に注目してください。ここで、イエス様は、私たち人間の内、ある者たちは、『永遠の刑罰に入る…』**ということをお告げくださっています。…でしょ？…なのに、時々、「聖書の神様は恵みに富んだ御方なので、究極的には、すべての人間たちが救われる…」というようなことを言う人たちが居ますが、『**永遠**』という言葉は、「しばらく、苦しんだら脱出できる」という意味を含んでいるのでしょうか？…違いますでしょ？

ここ 31-33 節に書かれています内容は、恐らく、「最後の審判」での様子を現わしていると考えられます。人の子(=イエス・キリスト)が、羊と山羊とを分けられる…。実は、その時まで、羊と山羊(つまり、信者と未信者)とは、混在しているのです！あのマタイ 7 章でも教えられてありますように…、あるいは、マタイ 13 章で教えられてある「**麦と毒麦**」のように、信者と不信者との区別は、そう容易いものではありませぬ。バプテスマを受けていれば、救われている…。どこかの教会の一員だったら、救われている…というような…、誰の目にも分かるような簡単なものではないのです。だから、イエス様は、そういったことを、今日のみことばのように、何度も何度も、教えてくださっているのです。

ここでイエス様が話して下さっている、羊と山羊とは、一体、何がどう違っていたのでしょうか？⇒それは、彼らの生き方であり、いえ、「生き方」と言えば、それは、①再臨のための備えをしている、②賜物を用いて、主のために働いている、というも、確かに、彼らの「生き方」であります。この3つ目のポイントを、もう少し詳しく言うなら、それは、愛を実践しているか否か、というのではないのでしょうか？…と言いますのも、愛の実践こそが、本当に救われた者たちに現われる、1番の特徴であるからです(Iヨハネ書の教えも同様)。

例えば、Iヨハネの手紙などは、「この書を読む者に、信仰(救い)の確信を持ってほしい！」という目的のもとに書かれた書物です(Iヨハネ 5:13)が、その手紙は、救われた者たちの証掘について、何と教えてくれています？⇒その1番の特徴は「愛」じゃないですか！そうでしょ！…だから、その書を書いた使徒ヨハネは、『愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。』(Iヨハネ 4:8)とか、『神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者****

に、目に見えない神を愛することはできません。』(Iヨハネ 4:20)と言って、「本当に救われている者たちは皆、神と人…、特に、同じ主によって救われたはずの兄弟姉妹を愛するはずだ！」ということを教えてくれていますでしょ！…そのように、本当に神様によって救われた者たちは、何よりも、「神と人を愛する者、いえ、愛そうとする者」へと変えられるはずなのです！

皆さんも覚えてくださっていますよね？ガラテヤ 5:22-23 が教えてくれている、御霊の実は、まず第1に、『愛』であって…、その次に、『喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制…』と続いていくわけじゃないですか。イエス様を信じて救われた者たちは、何よりもまず、愛という部分において変えられるのです。だから、この部分で、イエス様は、その愛の部分をもって、救われている者とそうでない者たちとを見分けられておられるのです。

<励ましの言葉>

ですから、ここで、皆さんにお尋ねします。果たして、皆さんは、イエス様を信じて変えられた者でしょうか？皆さんは、天の神様が愛に満ちあふれた御方であるのと同じように…、その愛を実践しようとする者でしょうか？もちろん、私たち人間が、完全に神様と同じようなほどの愛を実践することはできないでしょう。天の神様は、罪にまみれた私や皆さんを救うために、ひとり子でさえ犠牲にしてくださるほどの御方だからです。救い主として生まれてきてくださったイエス様は、私たちの罪を赦すために、自ら進んで十字架へかかってくださいました。神様の愛とは、それほどのものなのです。

もちろん、私たちは、そこまでの完璧な愛を実践することはできません。しかし、神様によって変えられた私たちは、その神様にならう者なのです。そうですね？果たして、皆さんは、この神様の愛に感動して…、この神様の愛によって救われたがゆえに…、この神様の愛を実践しようとする者でしょうか？それとも、相変わらず、自分のことを第1として…、イエス様のことを知った後でも、自分のために生きようとする者でしょうか？

どうか、新年を迎えたばかりの今日…、皆さんには、そういったことを今一度、吟味していただきたいと思います。果たして、本当に、恵みに満ちあふれた、真の造り主なる神様がいらっしゃるのかどうか？また、果たして、自分は、イエス様の再臨を、心から待ち望んでいるかどうか？また、私は、いつイエス様が再臨してくださっても良いように、そのための備えができているかどうか？神様が与えてくださった賜物を生かして、その神様のために働いているかどうか？そして、私は、天の神様にならって、その神様の愛を実践し…、その神様の素晴らしさを、自分自身の身をもって、証しようとしているだろうか？って…。

そして、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、今後、益々、自分のような者を救ってくださった神様に、心からの感謝をもって、この1年を歩んでいってくださいますことを願います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。